



自分を豊かに

ふくらませよう



九里学園高等学校
図書委員
印刷 (株)川島印刷
TEL 21-5511 (代)

未来へ情報発信

図書館長 藤 卷 芳 子

待望の新設図書館へ三・五万冊の図書の搬入を始めたのは昨年の三月末です。春の連休時に貸し出しのできる様にと大急ぎで整理しました。その間二、三年生の図書委員の方々には図書館運営の私達とひとつ気持ちになってお骨折り頂きました。この場を借りて心からお礼を申し上げます。それから一年、司書の大久保先生の御尽力で隅々まで整備され、今では校内で最も快適で居心地の良い部屋になり、毎日多数の生徒が出入りしています。

学園長先生に揮毫して頂いた看板を掲げた入口から入ると、天井から床までの総ガラス張りの北面の明るさが眼を引きまします。又中央の天窓から差し込む光がスポットライトになって、下のブラウジングスペースを照らします。そこには椅子に座って手の届く位置に雑誌架や新聞棚、新刊書や話題の本等を満載させた弓型書架を配置しました。常に何人かの人が入れ替わり立ち替わりに立ち寄っていきます。コンピュータは閲覧室と司書室に設置しました。インター

新図書館へ望む



ネットも稼働します。先日は留学生がコンピュータの前で何やらクスクス笑っていました。故国からのメールを読んでいたのです。三年生の自主研究が佳境に入った頃、主に参考図書の検索や資料の呼び出しで頻繁に使用されました。何よりも最新情報を入手できる可能性があるわけですから興味湧き出ることでしよう。今後も一・二年生の課題研究でおおいに利用し、深まりのある研究にしていってほしいものです。

新しい図書館をよく利用してくれる方の声を拾ってみました。

インタビュー

A..新図書館のどこが気に入っていますか？
B..こんな工夫があればいいなと思うところは？

- ◆ ◆ ◆
- 一 一 佐々木良典君
A..好きなジャンルの本が沢山ある。宿題の参考になる資料が豊富にそろっている。
- ◆ ◆ ◆
- 三 一七 遠藤 京子さん
A..イスが座りやすい。しきりがあって使いやすい。
B..コンピュータを二、三台、常に生徒が使えるようにしてほしい。
- ◆ ◆ ◆
- 二 一六 河内 理沙さん
A..勉強しやすい環境で、いろんな分野の本があり、きれいで落ち着いている。
B..新刊を増やしてほしい。もうすこし長く借りたい。読みたい本のアンケートをとって買ってほしい。
- ◆ ◆ ◆
- B..心が落ち着くBGMを流してほしい。



ここに来て私達の図書館は、読書活動の場、学習センター、情報発信地という本来の目的にそってフルに利用できる状況になりました。さらに多くの生徒の皆さんが、ここから自分の生活を豊かに膨らませていくことを心から願ってやみません。



厳粛な感動

九里祭 世界の文字展

1999. 8. 28・29

意思を伝えるために
何度も練り直されて
生まれた**文字**

3-3 青木 望

今年の九里祭の展示テーマは「世界の文字」でした。文字は、図書館の原点であると考えたからです。図書委員全員で、夏休み前から徹底的に調べ上げました。

この展示にあたっては、自主研究でヒッタイト象形文字や梵字を研究している方々にも協力・参加してもらい、内容の濃いものにするのができました。現在では消滅した文明の文字や、未解読の文字、そして、現代の丸文字までと幅広い範囲で「文字」を調べました。

会場には堂々としたエジプト風の入口を作り、その回りには多種多様な文字を散りばめたり、モアイ像や結縄文字(キープ)やロゼッタストーン



したものだと思いました。また、エジプトの象形文字は美しいと思いました。それを十七年もかけて解読したシャンポリオンという青年の情熱に心ゆさぶられるようなロマンを感じました。

「文字」は、人間が何かを伝え残したいという切実な思いから生みだされたものです。私達は、その国の思想や、願いが込められた文字のほんの一部に触れただけですが、この夏は頑張ったという厳粛な満足感があります。

「文字」は、時代が変化しても人間の意思の伝達手段として永く使われていくことだろうと思います。私はこの展示をとおして、日本の言葉・文字を大切にしたいと思いました。

茂吉のバケツ(小水用)

じっくり見てきました

ンなども復元し、場の雰囲気盛り上げたと思います。

私達は「文字」に込められた人間の思いを知りました。特に、マヤ文字の複雑さに驚き、これが暦や大きな出来事をする

山形の歴史文化を訪ねて

図書委員研修旅行 1999.7.3



今年の研修旅行は山形市内に行きました。残念なことに他高校との交流がなかったのですが、山形の文化に触れるという意味でよい研修になったと思います。

まず私達が向かったのは、「齋藤茂吉記念館」でした。茂吉は日本を代表する優れた歌人として知られ、作品には「赤光」「あらたま」などがあります。記念



館では茂吉が「極楽」と称した小水用のバケツをじっくり見て来ました。マルチスライドは大変詳しく分かりやすかったです。茂吉の短歌を読んだことがなかったのだけれど、新鮮な感動を覚えました。

山形市内に入ってから、八文字屋書店にて本の購入をし、終わった人から昼食をとるというものでした。集合場所の文翔館に方向音痴でたどり着けない人がいてあわてました。ここでは地域の文化・風土などが紹介してありました。復元された天井の漆喰の花飾りがとてもレトロな感じがしました。県立博物館では目的の縄文のヴィーナスが工事のためお蔵入りして見ることが出来ませんでした。

来年は是非高校と交流をしたいと思います。

(二一三) 藤崎 智

優勝 3-3
準優勝 3-8
3位 3-7
4位 1-2

最後の一枚 我クラスの手中に 札はなかった



1-2 鈴木 茂幸
百人一首クラスマッチ
2000.1.20・21



「こつちにしか札ねーよ。」

そう思いながら実力の違いを感じた三年八組との試合。今思えば一週間前位から覚え始めた百人一首でよくこれだけやれたものだと思う。

運と、図書館やハウスで練習したおかげなのか、一回戦で負けるだろうと思っていた一年二組チームとして勝ち、二回戦も勝つことができた。

三回戦は三年八組。勝てないと思った。やっぱり勝てなかった。自分達の方の札は、ほとんどぬけているところが

なかった。完敗だった。

僕達は三位決定戦にまわり、三年七組との試合で一步もゆずらない、気の抜けない展開でゲームは進んだ。終盤、双方とも同じ位の数の札が余った。そして互に一枚ずつになった。二分の一の確率で手を出した。しかし最後の一枚は、一年二組チームの誰の手中にもなかった。

百人一首のクラスマッチは百人一首について色々学んだし、楽しかった。

和歌をカードゲームにしたのは誰れ？

二一四 鈴木 麻生

「三校合同百人一首を楽しむ会」が二十年ぐらいい昔からずっと続けられてきていると聞いたときはびっくりしました。当日は、正月六日でした。当日は、正月六日でした。が、予想外の四十人が来てくれました。私のクラスメートの参加もありました。初めての参加だったので不安で大変緊張しました。しかし読み手が我が校の先輩だったので緊張が解け、札の方に集中出来ました。私は、歌をあまり覚えて

覚えていなかったの、目の前の札ばかり見て取っていました。米商の人は、遠くにある札もバシバシ取っていて、すごい迫力がありました。私は覚えていなかったことを後悔しました。

三校合同読書会
於 米商
1999.11.6

性風俗の描写に びっくり テキストで揉める

3-7 鈴木 藍

十一月六日、米沢商業高校を会場に、工業、商業、九里で、三校合同読書会が行われました。今回のテキストは、村上龍著の「イン・ザ・ミッソープ」という本でした。この本の内容に



十一月六日、米沢商業高校を会場に、工業、商業、九里で、三校合同読書会が行われました。今回のテキストは、村上龍著の「イン・ザ・ミッソープ」という本でした。この本の内容に

第一章を読んだ時点で、このテキストでは話し合いにならないのではないかと思うほど、殺人や性風俗の描写がリアルで、中には気持ち悪くて読むこともできないと言う人もいたほどでした。しかし、最終的には米商の強い勧めにより、そのまま続行することになりました。

当日は班ごとに話し合う形をとりました。討論の内容が少し難しく、答えに詰まってしまう部分もありました。特に「外国人から見たミッソープは、どんな意味があるか」という質問について頭を悩ませていたようです。

この本は、「日本文化とは何か」などを考えたこともない日本人に、反省をうながすのだと思います。



三校合同「百人一首を楽しむ会」
2000・1・6 於九里

でしようか？不思議な楽しさに魅了されます。来年は完璧に覚えて楽しみたいと思います。



一年生にして、「本喰い虫の弁明」を書くことになってしまいました。私の場合、小説などは自分で買い、資料的な本は図書館から借りるので、図書カードの書名欄は歴史、民俗、服装史、地理、植物などバラエティーに富んでいます。

私の本の読み方は二種類あります。文字の作りだす世界を楽しむ小説や詩などの読み方と、逆に文字の向こうに透けて見える人間の生活を感じる資料的な読み方です。両方とも大好きで、いろんな世界を見るべくたくさんの本を読

本喰い虫の弁明

昔の人の素晴らしさ

愚かさ

みんな私達と同じ

1-3 松尾美香

みました。この方法だと雪だるま式に読みたい本がふえ、ついには一時も本を手放せなくなりません。

今年読んで楽しかったのは「歴史をさわがせた女たち」で、授業で学んだ、たおやかな大和撫子というイメージを女性たちは、気持ちいいくらいに壊してくれました。静御前はレジスタンス舞姫、北政所は日本一のオカミさんなど生き生きとした女性に会えてうれしくなりました。彼女たちのことをもっと知りたくなり、「日本服装史図説」「日本庶民生活史」などを、いもづる式に読んでいきました。これらの本から感じたのは人間の本質の不変さです。時代は違えど人の心の素晴らしさも愚かさも私達と同じということですね。

今年は、はるか歴史のなかにいた昔の人がぐつと身近

になりました。この方法だと雪だるま式に読みたい本がふえ、ついには一時も本を手放せなくなりません。

貸し出しベスト10

5月~1月まで
(2000年1月13日現在)

1位	1-3	松尾 美香	97冊
2位	3-3	粕谷彩英子	94冊
3位	3-8	舟山 良子	66冊
4位	3-3	青木 望	62冊
5位	3-7	遠藤 京子	60冊
5位	1-7	佐久間 萌	60冊
7位	1-2	中村 昌平	54冊
8位	3-8	津山 幸枝	48冊
8位	2-4	鈴木 麻生	48冊
10位	2-3	藤崎 智	46冊

いつ、誰が… 書物の不思議 <その7>

ゲーテンベルグの印刷

「文字と書物」より

本を作るには文字を手で書く以外に方法はなかった。しかし、それでは書物の需要に追いつけないので、どうしても速くて安上がりな方法が必要だった。

中国では、一ページ分の文字を彫って木版で、巻き物や綴じ本を作る方法が考え出された。

ドイツの金細工師ゲーテンベルクは、すず、鉛、アンチモンを混合した金属を溶かし、鋳型に流し込んで一文字ずつの活字を作った。その一文字ずつを並べて単語を作



り、刷り終わったら活字をばらばらにして何回も再生できる仕組みにした。そして、インクは水性だとは全体に広がらないため、堅果油や亜麻仁油という油性のものが使われた。いい黒色を出すためにすすもつかわれた。彼は、一四四五年（日本は室町時代）木製の圧搾機に似た機械で最初の印刷を行った。この成功は、近隣諸国に広まり、十五世紀の終わりにヨーロッパのほとんどの国にこの印刷機が広がった。

編集後記

先輩の都合により一年生だけの編集でした。慣れない、時間がないという状況でしたが、よい図書館だよりになったと思います。一年間の総決算の図書館だよりをぜひ読んで下さい。
(二年 松尾)